

在仏日本人会
会報
2020年
1月・2月号

Journal Japon



新年のご挨拶



令和2年1月吉日
片川喜代治
在仏日本人会会長

皆さま、あけましておめでとうございます。

いよいよ本年は東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。日本にとって、「未来をつかむ (discover tomorrow)」ターニングポイントとなることを願っています。会員の皆様の周辺でも、日本に関する話題が何かと増えると思いますが、このスポーツの祭典を最大限に盛り上げるべく支援していこうではありませんか。

それはさておき、年末から、日産自動車の前会長カルロス・ゴーン被告が日本を脱出し中東レバノンに到着したという映画のような衝撃的ニュースが世界中を駆け巡りました。

かつて、経営と財務危機に瀕していた日産に巨額の資金投入を行い、短期間で立て直しを果たして、フォーチュン誌が、「アメリカ国外にいる10人の最強の事業家の一人」と称したゴーン氏が、突然逮捕された時の容疑が、年収の過少申告でした。その後、業務上横領すなわち、特別背任罪で追起訴されました。同氏の年収は、2016年にルノー・日産・三菱自動車の3社合計額が30億円、2017年は三菱自動車の会長職を辞任して2社合計19億1200万円。逮捕の容疑である申告を逃れた額が5年間で50億円。これだけの収入を得ながらさらに「もっと、もっと」と欲望が膨張する人間の欲というか性という側面から、本事件を見てみたいと思います。

ノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマンという行動経済学者は、「長続きしない幸せばかりを追い求めている哀れな人間の姿」を、「フォーカシング・イリュージョン」という言葉で表しています。すなわち、仕事によって得られる金・モノ・名誉などは、短期的幸せの象徴だというわけです。短期的幸せは、もともと長続きしないように人間の心はできているというのです。私たちの脳は欲深くできているので金・モノ・地位を得られるとその時は嬉しくてもすぐに、もっと欲しいと思うようになるので、幸せが長続きしないというわけです。

「敷居を跨げば7人の敵がいる」と、昔から言われていますが、人はそういう戦いを経て、金・モノ・名誉や地位を得るわけで、一つの戦いの後には すぐ次の戦いに挑まねばならないので、幸せは一時的になってしまい「キリがない」ものとなります。そのような人間の性を次のように言い当てたのが哲学者ショーペンハウアーです。

「富は海の水に似ている。飲めば飲むほど、のどが渇く」

飽くことなく「富」を求めて生きてこられた感のあるゴーン被告は、レバノンに逃亡して、幸せの根幹をなすところの本当の心の「自由」や「安心」を得たのでしょうか。そうは全く思えないと思うのは、私だけでしょうか。

翻って、会員の皆様におかれましては、今幸せでしょうか。あなたにとって、幸せとはどのようなものでしょうか。そして、あなたが思う幸せに近づくためには、どうしたら良いと思いますか。ゴーン騒動が今後、どのように進展・反転していくのか定かではありませんが、これらのことを、考えるうえで、重要なヒントを与えてくれているのがこの事件であり、本当の幸せを考える良い機会ではないかと思ひ、皆様と共有させていただきました。

日本人会が、会員の相互扶助と親睦を目指して62年前に設立されたことをご承知の通りです。この相互扶助とは、自分が他人から与えられるものは、自分が他人に施したものの裏返しであるという考えに基づいています。それは、まさに会員の皆様一人一人に、楽しく安心で幸せな生活を分かち合ったいという理念でもあります。

皆様とともに今年一年、「幸せ」をキーワードに頑張っていく所存です。

最後になりましたが、この一年の皆様とそれを支えるご家族のご健康を祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

パイプオルガンに魅せられて

初めまして。パイプオルガンの勉強のために留学中の阿部翠と申します。2018年の10月にパリにやってきましたので、こちらで暮らし始めて一年と少し経ったところ

です。来て早々にスリにあったり、寒さと乾燥のせいで何でも風邪をひいたり、滞在許可証をはじめとしたあらゆる手続きに四苦八苦したりしながらもなんとか生きてきました。私は日本のコンサートホールでパイプオルガンに会い、その大きさや迫力に衝撃を受けて勉強を始めました。日本の大学院を休学してこちらにきていため、今年の秋には日本に帰らなくてははいけません。

この機会に改めて自分の生活を振り返ってみると、週に1回一時間半のレッスンを中心に、あとはひたすら朝から晩まで練習しているという感じで、文章化しても全然面白みがありません。パイプオルガンが他の楽器と違うのは、オルガンがある場所に行かないと練習ができない、ということです。なのでいつも同じ場所で練習しているわけではなく、音楽院で他の学生が練習していない隙を狙って練習したり、教会のオルガニストに頼み込んでその教会で練習させてもらったり…練習場所と時間の確保は、オルガニストにとっていつも付きまとう問題です。



パリのSt. Séverin教会にて

それから、教会のミサで奏樂することも大事な勉強の一つになっています。私はクリスチャンなので日本でも教会でオルガニストをしていますので、本場で体験できることはありがたいです。フランスの教会には大体大きなパイプオルガンが備わっていて、ほとんどの場合、教会に入って後ろを振り返ると沢山のパイプが並んでいるのがわかると思います。フランス各地に素晴らしいオルガンがあり、オルガニストにとっては宝の山といった感じですが、例えばパリではSt.Sulpice教会、St.Eustache教会などはオルガンもオルガニストも素晴らしいので、ぜひ日曜日のお昼のミサに行って響きを体感していただきたいです。もちろん、ノートルダム大聖堂のオルガンも素晴らしいので、一刻も早くミサが再開されるのを祈るばかりです。

こちらの冬は寒く、暗く長いので心が塞ぎがちになりますが、だからこそ、春の喜びを歌った音楽(ベートーベンやヴィヴァルディの春など)のことが分かるようになりました。そのようにこちらの空気を肌で感じ、より一層音楽への理解を深めたいと思います。

阿部翠(あべみどり)

東京藝術大学音楽学部楽理科、器楽科オルガン専攻卒業。同大学院に在学中。楽理科在学中にオルガンを始める。現在、東京芸術大学留学支援奨学金を得て、パリ地方音楽院へ留学しChristophe Mantouxに師事。



第37回 パリ(囲碁)名人戦 (2019年11月・12月開催)



今年のパリ名人戦は11月23日・24日の週末と11月30日・12月1日の週末の2回に分けて行われました。参加者は全部で115人、今年もたくさんの参加者を得られました。

第1週目の大会は初心者から中位者まで57人の参加、最年少者は8歳のSoren Touzot君、11歳のお兄ちゃんCyan君について碁を始めて今年初出場です。お兄ちゃんのCyan君はここ数年でメキメキ腕をあげ、今年はB級で2位に入賞するまでに上達しました。この兄弟はお父さんがフランス人、お母さんが台湾人で我々日本人から見ても親しみが持てる可愛い兄弟です。またこのグループには小畑さんと池田さんという常連の日本人が今年も参加してくださり日本人健在の印象を与えてくれました。もう一人お父さんが日本人、お母さんがフランス人という青年も参加していい成績を取ってくれました。

いよいよ2週目、なんと去年惜しくも優勝を逃した韓国人のKim Do Hyup君がまたこのパリ名人戦のためにわざわざ韓国からやってきました。去年優勝カップを逃したのがよほど残念だったのか今年こそ手に入ると意気込んでの出場でした。優勝戦は今年の囲碁世界アマチュア大会フランス代表に決まった6段Benjamin Dréan-Guénéaizia君との対戦になりましたがKim Do Hyup君がさすがに圧倒的強さをみせて優勝カップを手に入れました。聞けば彼は8歳から学校に行かずずっと碁をしているとのこと、驚いてしまいました。今23歳ですからなんと15年も碁ばかりしていることになります。そして100個のトロフィーを勝ち取るのが目標だそうです、世界中の碁の試合に挑戦しているとのこと。ただ日本は勝ってもトロフィーがないので駄目だそうです。今のところ30数個集まっているとの事ですが、まだ先は長そうです。参加者日本人最強は Meier Kenzo君5段ですが壁は少し厚かったようです。

賞品として今年もリコー社から360度撮影できるという高級カメラを頂き、名人位獲得者に渡されました。それに加えて12月に職務を終えられた旧駐仏日本大使の木寺大使御夫妻からもたくさん賞品を頂きました。パリ名人戦のことをお話した際、大使杯があるのを知りませんでしたと恐縮され色々選んで賞品を調達して下さいました。このパリ名人戦の特徴の一つは実力によりクラスが四つに分かれており、それぞれのクラスで1位から5位までの人に賞品が渡されることです。自分の実力のクラスで碁を打って、そこでいい成績を取ると賞品がもらえるというシステムです。その為いつもたくさんの賞品集めに苦労しています。ですから木寺旧大使からの寄付は本当にありがたいことでした。日本人会からも令和のTシャツを頂きました。

このように今年も日本人会と共に行ったパリ名人戦も無事に終わり、出席者に喜んでもらえて我々主催者も嬉しく思っております。日本トランスユーロ社には今年も荷物の運送を助けて頂きました。Hubert 桂子 どうも有難う御座いました。



上) 1週目授賞式 下) 2週目授賞式



Meijin A

1. Kim Do Hyup 7段 韓国
2. Benjamin Dréan-Guénéaizia 6段 フランス
3. Lucas Neiryck 5段 ベルギー

Meijin B

1. Nicolas Robichon 1級 グルノーブル
2. Cyan Touzot 3級 パリ
3. Rémy Noel 1級 ルヴァロア

Meijin C

1. Sylvain Ravera 5級 ルヴァロア

引越しセミナー

ご帰国までのスケジュールリング・引越免税・ワイン輸送など分かりやすくご案内

参加特典をご用意!

2.14(金)13~15時(お茶付)
在仏日本人会(パリ16区)

整理収納アドバイザー 2級講座

欧州でただ一人の
2級認定講師
西川 明男



2.22(土)10~17時

パリ15区事務所 2月14日(金)申込締切

ご帰国の標準引越しご利用のお客様は **受講無料**

劇場のススメ

堀切克洋(演劇評論家)

劇場に通いはじめて15年、いまでも開演前の客席のざわつきが大好きです。映画館ともコンサートホールとも明らかにちがう空間。自分でお金を払ってやってきたのに、これから何がはじまるのか、皆目見当がつかません。いわば、それは「賭け」のようなもの。

劇場にもいろいろありますが、私が通っているのは主に、公共劇場の演目です。パリでいえば、モンパルナスの歓楽街ではなく、国立オデオン劇場(6区・17区)、国立コリーヌ劇場(20区)、パリ市立劇場(4区)、パリ=ヴィレット劇場(19区)など。娯楽か芸術かといわれれば、後者です。長年パリに住んでいても、そこには足を踏み入れたことがない……という方も多いかも知れません。

そこで今回は誠に勝手ながら、私が好きなパリの劇場ベストスリーをご紹介します。

第3位は、10区のブッフ・デュ・ノール(Théâtre des Bouffes du Nord)。1974年にイギリス人演出家のピーター・ブルックが立ち上げた劇場です。客席に入ると廃墟のような空間に鳥肌が立ちます。コンサートの他、話題性ある劇団や演出家がしばしば取り上げられています。2月末には、ジェンダー・アイデンティティを主題にした作品を発表してきたフィア・メナール(Phia Ménard)が登場します。

第2位は、11区のパスティュー劇場(Théâtre de La Bastille)。1990年代から若手の登竜門になっている劇場です。室内装飾のない現代風の小さな劇場ですが、そのぶん客席に一体感が生まれることも。

第1位は、誰が何といおうと、6区の国立オデオン劇場(Odéon-Théâtre de l'Europe)です。オペラ座のような正統的な額縁舞台ですが、客席数が少なく空間がとっても密なのです。ぜひバルテール(1階席)での観劇をオススメします。

去年11月には、国立モンペリエ演劇学校を卒業した女優の竹中香子さんが、「千夜一夜物語」の再演で、この舞台に立ちました。3月から4月にかけて上演されるイヴォ・ヴァン・ホーヴェ(Ivo van Hove)演出の「ガラスの動物園」は、イザベル・ユベールが主演。日本では、9月に東京・初台の国立劇場で上演予定です。

あまり難しいのはちょっと……という方には、パリ=ヴィレット劇場などで行われているサーカスやダンスの公演をお勧めします。とくに気鋭のヨアン・ブルジョワ(Yoann Bourgeois)は、絶対に見ておいて損はしません。チャップリンの孫に当たるジェームス・ティエレ(James Thierrée)は裏作ですが、やはり独自の存在です。

演出家ならジョエル・ポムラ(Joël Pommerat)や人形作家でもあるジゼル・ヴィエンヌ(Gisèle Vienne)、劇団ならばシアン・ド・ナヴァール(Chiens de Navarre)など、名前を挙げればキリがないのですが、前評判など気にする必要はありません。俳優が客席に向かって投げかける演技(jeu)と同様に、演劇というのは本来、あそび=賭け(jeu)なのです。



【プロフィール】

1983年、福島県生まれ。2007年より演劇研究をはじめ、2013年から2015年まで、フランス政府給費留学生としてパリ第7大学博士課程に在籍。2019年より妻の仕事の都合で再び来仏。共訳に『ヤン・ファールの世界』『歌舞伎と革命ロシア』、近刊(共訳)にパトリス・パヴィス『演劇事典』、アンヌ・ユベルスフェルド『ポール・クロウデル』、パスカル・キニャール『ダンスの起源』など。



先月は高速バスの長距離通勤で大変でしたが、たくましくなったような気がします。今年も明るく頑張ります。 廣重幸美

真の平和と共存の道を身を以て実践された中村哲さんの気高く強い魂がこの世のあちこちで引き継がれていきますように…。 ワイルド令子

2020年が始まりました。清々しい新年を迎えて、気持ちも新たにがんばっていききたいと思います。 浜田喜代香

より良い授業を目指して、マイペースで頑張りたいです。今年もどうぞよろしくお願致します。 西岡 緑

ヨーロッパでの和紙にまつわるお話 <12>

～縮緬紙、ゴッホ、ヴェルハーレン～

坂本昭二(龍谷大学/Centre de Recherche sur la Conservation)

今回は縮緬(ちりめん)紙と呼ばれる加工紙にまつわるお話です。縮緬紙とは揉み台(圧縮機)と押型を用いて通常の和紙の表面にしわをつけたもので、凹凸のあるしわ模様が布の縮緬のような風合いを持つことから縮緬紙と呼ばれています。江戸時代から続く手法で、摺られた後の浮世絵版画などに加工を施して縮緬紙にしていました。ところで、ファン・ゴッホ(Vincent Willem van Gogh(1853-1890))が浮世絵を収集していたことはよく知られていますが、その中には縮緬絵(フランス語ではクレポン(Crépon))と呼ばれる縮緬紙の浮世絵の存在も確認されています。彼が1888年に弟のテオに宛てた手紙には、「…ぼくにとっては平板な色合いのごく普通のクレポンがルーベンスやヴェロナーゼと同じ理由で素晴らしい。…」と書かれていますし、さらにゴッホの友人であったハートリック(Archibald Standish Hartrick(1864-1950))はゴッホが油絵具のわずかな陰影を利用して縮緬絵と似たような効果を生み出すことを狙って、これを成し遂げたと述懐しています。このことから、ゴッホが縮緬絵に魅せられていたかがわかります。

このような縮緬絵はゴッホに限らず西洋の人達に人気があったようで、明治時代には長谷川武次郎(1853-1938)によって縮緬本として大量に出版、輸出されました。武次郎の作った本は、例えば「桃太郎」、「舌切雀」、「猿蟹合戦」、「花咲爺」、「浦島太郎」、「因幡の白兔」(日本昔噺シリーズ)などを外国語に翻訳したもので、翻訳者の中にはラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn(小泉八雲、1850-1904))などの名前も見られます。これらの出版物の中にはさらなる翻訳協力者によって英語、フランス語、イタリア語、ロシア語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語、スウェーデン語などに翻訳されたものも存在します。このような縮緬本は、挿絵部分は伝統的な浮世絵の手法で摺られ、文字の部分は鋳造活字で印刷され、和綴り製本されていました。ただし、縮緬紙で作られた縮緬本だけでなく、縮緬加工されていない通常の平らな和紙の本(平紙本)も製作されていました。武次郎の出版物の多くは日本の伝承物語の翻訳本でしたが、一風変わった縮緬本に「Images Japonaises」があります。この縮緬本(平紙本も存在)は日本の風景画などを印刷したもので、このこと自体は別段変わったことではないのですが、風景画の挿絵にベルギー出身でフランスでも活躍した詩人エミール・ヴェルハーレン(Émile Verhaeren(1855~1916))のフランス語の詩が添えられています。詩の一文に「Pour ceux d'Europe et de Paris」とあるように1900年のパリ万国博覧会に出品するために、武次郎が当時すでに有名であったヴェルハーレンに詩を依頼したようで、この縮緬本は完全な和洋折衷の珍しい作品と言えるでしょう。

通 NIPPON EXPRESS

引越し
は日通

- 日本人による親切、丁寧な事前見積
- 引越書類の作成も日本人スタッフがサポートさせて頂きます
- 集荷から配達まで一貫輸送サービスを展開しております

引越相談会日程: 1月23日(木) 10時30分~12時30分
会場: JAL/パリ支店 会議室
住所: 4 rue de Ventadour 75001 Paris(仏式1階)
最寄駅: 地下鉄7④ Pyramides ③⑦⑧ Opéra
定員: 12名
備考: 昼食付、LAVINIAのワイン試飲、とらやのどら焼き付き

日本はもちろん、他の国やフランス国内のお引越しもお気軽にご相談ください

お引越し専用ダイヤル(日本語でどうぞ)

01 41 84 63 50

Eメール: nittsu.paris@neeur.com

HP: www.nipponexpress.com/moving/fr/
(HP内 お問い合わせフォームございます)

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2020年1月20日～2020年3月10日)

入館案内

開館日：毎週火曜日～土曜日（日、月曜日、祝祭日は休館）
開館時間：12時～20時、図書館は12時～18時（木曜日のみ12時～20時）

【展示】

*展示は別途表記のないものはすべて展示ホール(2階)で開催(火～土、12時～20時)
「トランスフィア #7 塚原悠也 + contact Gonzo -- watching you surf on beautiful accidents」展

会期：1月29日(水)～3月28日(土)

入場料：無料

内容：トランスフィア・シリーズ最終回は、一見制御・統制されているかのように見える現代の都市で起きる偶発的な事故や状況と、人はそれにどう対処するのかについてを考察するインスタレーションです。先端的な問題意識を共有し、激しい身体のせめぎあいの特徴とするcontact Gonzoのパフォーマンスの映像と実践、さらにcontact Gonzoの創始者かつ現メンバーのひとり、舞台美術や演出も手掛ける塚原悠也による都市高速のメタファのようなベルトコンベアーのインスタレーションを実現します。

第7回「伝統と先端と～日本の地方の底力～」展

会期：1月21日(火)～2月1日(土)

入場料：無料

主催：(一財)自治体国際化協会パリ事務所(クレアパリ)

内容：北は東北・青森から、南は九州・熊本まで17の地域から、織物・漆器・陶磁器・木工・金工等の、現代の生活にモダンに取り入れられたり、他分野に先進的に活かされたりしている匠の技の結晶を「衣」「食」「住」の視点で紹介いたします。会期中は、職人による実演も実施予定です。

参加地方自治体：青森県、鶴岡市、新潟県、富山県、金沢市、福井市、山梨県、富士川町、長野県、高山市、名古屋市、京都府、浜田市、倉敷市、福岡県、久留米市、熊本市

「WAFRICA-Japon Afrique intime」展

会期：2月18日(火)～3月21日(土)

入場料：無料

内容：カメルーン人アーティストSerge Mouanguelによる「WAFRICA」プロジェクトは、日本とアフリカの美的近似性を浮かび上がらせます。今回の展示では、アフリカ布を用いた着物の写真、彫刻等の展示を行います。パリは、日本にとって仏語圏アフリカへの窓口です。「遠くて近い」アフリカを、パリで発見してください。

いけばな小展示

会期：1月14日(火)～18日(土)

会場：地上階展示スペース

【公演】

「contact Gonzoパフォーマンス+塚原悠也 講演会」

日時：1月28日(火) 18時～20時

会場：大ホール 入場料：予約制・無料

内容：「トランスフィア #7 塚原悠也 + contact Gonzo - watching you surf on beautiful accidents」展の開催に際し、楽しく体をぶつけあうcontact Gonzoのパフォーマンスを実施した後、塚原悠也によるアーティストトークを行います。言語：講演会は日本語(フランス語逐次通訳付) 予定

「contact Gonzoパフォーマンス」

日時：1月29日(水) 19時～19時30分

会場：大ホール 入場料：予約制・無料

内容：「トランスフィア #7 塚原悠也 + contact Gonzo - watching you surf on beautiful accidents」展関連事業として、contact Gonzoのパフォーマンスを間近でご覧いただける公演の第2回です。

コンサート 和太鼓 真 『Vibrations - tambour japonais』

日時：2月8日(土) 15時～16時半

会場：大ホール 入場料：5€

内容：2009年に設立され2019年に10周年を迎えた和太鼓真の公演です。ゲストに日原史絵と浅井宏美を迎えお送りいたします。

コンサート Toku European All Stars

日時：2月15日(土) 16時半～18時、20時～21時半

会場：大ホール 入場料：一般20€、割引18€、会員16€

内容：フリューゲルホルン奏者・ジャズボーカリストTokuを中心としたクインテット European All Starsの初のアルバムリリースに併せたコンサートを実施します。

コンサート 奈良ゆみ 『20世紀の日本人女性作曲家』

日時：3月5日(木) 19時半～21時、7日(土) 15時半～17時

会場：小ホール 入場料：5€

内容：奈良ゆみ(ソプラノ)とモニック・ブーヴェ(ピアノ)の共演でお送りするコンサートです。日本の近代黎明期を生き、厳しい社会の流れの中でそれぞれの心意気を持って創作を続けた五人の日本女性作曲家の作品を紹介します。公演に先駆けて同志社女子大学音楽学教授の椎名亮輔による解説があります。

子ども・家族向け公演「天狗の団扇」

日時：2月21日(木) 及び(金) 14時半～15時

会場：小ホール 入場料：子ども5€、大人8€、10人以上の子供グループ一人当たり3€

内容：天狗のお話を紙芝居と演劇でお届けします。5歳以上対象。仏語公演。

【講演会・セミナー・シンポジウム】

講演会「日本人—その生活と国民性」

日時：1月22日(水) 18時30分

会場：小ホール 入場料：予約制・無料 言語：フランス語

内容：ジュネーブ大学で地理学の教鞭をとるラファエル・ランギオン＝オセル氏による講演会。複数回に渡る長期日本滞在の経験をもとに執筆した『Les Japonais』(Les ateliers Henry Dougier出版社)に基づき、日本各地の人々の生活から垣間見えてくる国民性に迫ります。

講演会「装飾美術館図書館:知られざる日本コレクション」

日時：1月29日(水) 18時30分

会場：小ホール 入場料：予約制・無料 言語：フランス語

内容：装飾美術館(Musée des Arts Décoratifs)の図書館には、18世紀から19世紀

までの350冊の挿絵本と、歌川派の600点を超える浮世絵等、著名な日本のコレクションが所蔵されています。同コレクションの歴史について、図書館の所蔵資産責任者ローラ・アベルシル氏が解説します。

上映会・講演会「ヴィラ九条山-レジデント交流会」

日時：2月6日(木) 19時～21時

会場：小ホール 入場料：予約制・無料

内容：ヴィラ九条山は、芸術的試行錯誤の実験室であると共に、様々な文化が交錯する場です。毎年20人程のアーティストとクリエイターが受け入れられ、日本に関係するプロジェクトを実施します。本イベントでは、第一期(1992年)レジデントであるアンジュ・レッチアをアートディレクターとして迎え、ヴィラ九条山に滞在した10人のアーティストの映像作品を展示します。それぞれが慣れ親しんだ土地とそれに付随する世界観の発見へと来場者を誘います。10本の映像作品の上映の後には、アーティスト達との交流会を実施予定。仏語事業。

講演会・デモンストレーション「源氏物語と宮廷文化～十二単と香道」

日時：2月8日(土) 15時

会場：小ホール 入場料：予約制・無料 言語：日本語(フランス語逐次通訳付)

内容：「源氏物語」に関する研究の伝統と実績を有する実践女子大学との共催により、衣紋道高倉流宗家高倉永佳氏、香道御家流宗家三條西堯氏による解説のもと、十二単・香道の実演を行います。源氏物語を感覚的に知り、当時なぜそのような文化が宮中で広まったのかを紹介します。

講演会<イノベーションセミナー2019～日本人の感性を活かしたモノ作り～フランス進出への軌跡>

①「パイロット：筆記具の新しいカテゴリー創出への挑戦/ペンの常識を変えた FRIXIONシリーズ」

日時：2月25日(火) 18時半～19時半

会場：小ホール 入場料：予約制・無料 言語：日本語(フランス語同時通訳付)

内容：1975年に温度によって色が変わるインクの基本原則を発見して以来、30年に亘り筆記具に応用する技術を高め、フランス会社との協力のもと、摩擦熱で筆跡を消去出来るボールペンを開発したパイロット。現在では世界100カ国以上、シリーズ製品として累計30億本を超える販売実績を達成し、当地フランスでも大ヒット商品となっている「FRIXION BALL」の開発秘話とPILOT社の事業展開について紹介します。

②「クボタ：フランスの食料、環境問題への挑戦」

日時：2020年2月27日(木) 19時～20時

会場：小ホール 入場料：予約制・無料 言語：日本語(フランス語同時通訳付)

内容：1890年の創業以来、近代水道の整備、農業機械による食料増産と省力化など、暮らしと社会に貢献する製品を世に送りだしてきたクボタ。技術開発を通じたフランス農業の発展への貢献、地域景観の改善や環境保全の取り組みなど、農機・建機分野におけるさまざまなクボタの挑戦を紹介します。

【映画】

「minima moralia (ミニマモラリア)」

日時：2月28日(金) 19時～20時45分

会場：小ホール 入場料：予約制・無料 言語：日本語(フランス語字幕付き) 予定

内容：「トランスフィア #7 塚原悠也 + contact Gonzo」展関連事業として、大阪府立現代美術センターの吉原治良賞記念アートプロジェクトでヘルシンキ、南京、ソウル、沖縄をめぐりパフォーマンスを行った映像をまとめた映画を上映し、contact Gonzoの活動の活動をたどる映画です。

【ワークショップ、他】

「畳縁と真田紐」ワークショップ

日時：1月24日(金) 14時半～16時

会場：教室1 参加費：20€

内容：「畳縁」は、畳表を保護する綿・麻糸等でできた畳の縁飾りです。畳縁は、倉敷の特産で、昔は、貴族、武士などの身分により、用いる色柄が限られました。「真田紐」は綿や絹の糸から織られた日本の伝統的な紐です。その丈夫さと豊富な色・柄のため、茶道具の桐箱を結んだり、刀を留めたり、帯締め(帯を留めするための紐)など、様々な用途に用いられます。このワークショップでは、様々な色柄の畳縁と真田紐を使ったカードケース作りを行います。10歳以上対象。仏語で実施。

「ミニ畳」ワークショップ

日時：1月24日(金) 17時半～18時半

会場：教室1 参加費：10€

内容：倉敷は古くから、日本の住居には必ずある畳と、その材料である「い草」の一大産地です。ワークショップでは、産地ならではの技術を気軽に楽しんで、小さい畳を作ります。ミニ畳は花瓶や、鍵・アクセサリーなどを置くために使えます。畳の縁は日本ならではの豊富な柄や色の織物「畳縁」で飾り、自分だけのオリジナル「畳」が作れます。7歳以上対象、仏語で実施。

食文化イベント「京都 真葛焼 茶懐石の器」

日時：2月7日(金) 及び8日(土)

会場：レセプションホール及び茶室

内容：330年の歴史を誇る窯元・宮川香齋家は長年京都で主に茶の湯のための陶磁器「真葛焼」を作り続けています。日本の茶の湯とは単にお茶を飲むだけでなく、あらゆる文化、工芸品が集約されています。その茶の湯に欠かせないものの一つが「茶懐石」であり、その料理は禅の影響を色濃く受け継いでおり、また現代の和食の基本ともいえるものです。真葛焼に美しく盛り付けられた茶懐石を通して、真葛焼の風雅な世界をお楽しみください。日本語事業、仏語逐次通訳付き。

茶懐石コース約10品：12時半、17時15分 料金：70€、所要時間：2時間～2時間

茶懐石コース約8品：15時15分 料金：50€、所要時間：1時間半～1時間45分

「OMOTENASHI」ワークショップ

日時：2月8日(土) 14時及び16時

会場：教室2 参加費：無料・予約制

内容：日本のおもてなしの心とは？日本航空としてお客様にサービスを提供する際念頭において「おもてなしの心」をご紹介します。参加者の方には「挨拶、立ち居振る舞い、身だしなみ、表情」といった観点からロールプレイングも実施し、「相手の立場になって考えるメンタリティー」「心が伝わるおもてなし」などについて皆さんと考えるセミナーです。仏語事業。

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内
(2020年1月20日～2020年3月10日) 続き

子ども向け「石庭を作るう！」ワークショップ

日時：2月11日(火)及び15日(土) 13時及び15時半
会場：教室2 参加費：10€
内容：モスクワ植物園日本庭園技術部学芸員・森田恵美講師が子ども向け日本庭園ワークショップを開催します。オリジナルの石庭を作ってみよう！仏語事業、5歳～10歳対象。仏語事業。

子ども向け「和綴じ」ワークショップ

日時：2月13日(木)及び14日(金) 14時及び16時
会場：教室2 参加費：15€ (5歳以上対象、8歳以下は保護者の同伴必須)
内容：平安時代から伝わる伝統的な和綴じを体験してみませんか？きれいな色と柄の友禅和紙を表紙に和綴じノートを作りましょう。古い和装本を見本に、本の仕様をよく見て学び、製作にとりかかります。ページの色や組み合わせも選んで、世界にひとつだけの作品に仕上がります。仏語事業。

大人向け「和綴じ」ワークショップ

日時：2月13日(木)及び14日(金) 18時
会場：教室2 参加費：30€
内容：まずは100年ほど前の和装本を一人ずつ手に取り、紙の使われ方や構造を理解します。次に基本の四つ目綴じにチャレンジ。さらに応用として麻の葉綴じ、亀甲綴じも学びます。表紙の友禅和紙と縫い糸は、当日会場でお好きなものをお選びください。作品はお持ち帰りいただけます。仏語事業。

子ども向け「日本舞踊」ワークショップ

日時：2月18日(火)及び20日(木)
会場：レセプションホール 参加費：浴衣レンタル15€、レンタル無し12€
内容：400年近い歴史を誇る古典芸能である日本舞踊。このワークショップではお子さんたちに日本舞踊を五感で体験してもらいます。手を膝に背筋を伸ばして先ずはお辞儀から。着物やお稽古道具(扇子、手拭い等)に触れつつ日本舞踊の世界の扉を開けて行きましょう。講師：藤間裕風。仏語事業。14時～15時半：幼稚園から小学生低学年 5歳～8歳児/16時～17時半 小学生中高年 9歳～12歳児

子ども向け「カタヒラヨシミ漫画集中講座」

日時：2月20日(木)～22日(土) 14時～17時
会場：教室2 参加費：3セッション1コース90€
内容：フランスでイラストレーター・漫画家として活躍のカタヒラヨシミ先生が集中講座を開講します。今回の集中講座では、絵の基本を学びながら共通のお話とシナリオを元に、プロの漫画家と同じ手順を踏んで、3日間で各自オリジナルの漫画を作ります。本講座ではタブレットは使用せず、手書きでの授業になります。/1日目 絵の基本を学び、オリジナルの登場人物を作る/2日目 ストーリーボード作り/3日目 原稿の仕上げ。仏語事業、12歳以上対象。

【囲碁教室】

開催日(土曜日)：1月25日、2月8・15・22・29日、3月7日
＜上級＞14時半～16時 ＜全レベル＞16時～17時半
受講料：10回コースに対し50€、MCJP会員及び18歳以下割引35€

【裏千家茶道-茶の湯】

開催日：1月15日～3月24日までの毎週水曜日(1月29日・祝日を除く)
参加費：一律7€

【裏千家茶道教室】

開催日(水曜日)：2月5日～3月25日までの水曜日、17時15分コース及び18時コース
参加費：8回コースに対し88€、MCJP会員割引64€、学生(26歳以下)割引76€

【表千家茶道-茶の湯】

開催日(土曜日)：1月25日、2月22日 参加費：一律10€

【表千家茶道教室-立礼】

開催日(火曜日)：1月21日～3月24日までの火曜日
17時半～19時半 参加費：10回コースに対し130€

【生花教室】

小原流：火曜日 初級12時半～14時、中級14時半～16時：1月21日、2月4日・25日、3月3日・10日
草月流：木曜日 初級13時～14時半、中級15時～16時半：1月30日、2月6日・27日
池坊流：水曜日 初級及び中級18時～19時半：1月22日・29日、2月26日、3月4日

【書道教室】

開催日(木曜日・かな中心コース)：1月23日～3月26日まで(2月13日・20日除く)
18時～19時半 受講料：8回コースに対し160€
開催日(金曜日・漢字中心コース)：2月28日～3月27日18時～20時
受講料：5回コースに対し130€

【布ぞうりワークショップ】

開催日(金曜日)：3月6日・13日 14時～17時、受講料：2回コースに対し45€

【折り紙アトリエ】

開催日(水曜日)：2月12日・19日 7歳以下：14時半～15時15分、3€
8歳以上及び大人：15時半～17時、6€

【日本舞踊教室】

開催日(水曜日)：2月26日～3月25日 15時半～17時 受講料：5回コースに対し着物レンタル付125€、レンタル無し100€

【日本庭園入門講座】

開催日(水曜日)：1月8日～29日 14時～16時 受講料：4回コースに対し120€

【日本文化体験アトリエ】

日本文化を垣間見ることができる体験アトリエです。お道具は全て貸し出し制です。
※登録権利は各分野一回のみとなります。

・日本画

開催日(金曜日)：1月17日～31日、18時～20時
受講料：3セッション1コース 箔付き130€、箔無し120€

【日仏バイリンガル子ども対象日本語アトリエ】

DULALAアソシエーションによる日仏バイリンガルの子どもの3-6歳対象の日本語教室。
詳細は当館サイト、または、アソシエーションのサイトをご覧ください。

■日本語事業部では、フランスの日本語学習者、日本語教師の方、そして広く日本語教育に関心をお持ちの方々にご参加いただける、さまざまな日本語教育事業を行っています。

【お問い合わせ先】

教師相談：nihongo.contact@mcjp.fr 日本語講座：koza@mcjp.fr

【日本語教師向け情報】

下記「日本語教師向け情報」ページに、会館日本語事業について最新情報を掲載しております。ご活用いただければ幸いです。https://sites.google.com/site/nihongomcjp/

【教師相談】

教授法、教材、教室活動等、日本語教師が抱える問題点について個別相談に応じます。メールでのご相談も受け付けています。対応可能な範囲で随時(希望日の1週間前までに当館日本語サイト「日本語教師向け情報」ページからお問い合わせください)
料金：無料、要予約 https://sites.google.com/site/nihongomcjp/home/soodanmooshikomi

【第4回全仏高校生日本語プレゼンテーション発表会】

日時：2020年3月14日(土) 13時30分～17時30分(予定)
会場：パリ日本文化会館 小ホール

発表会では、フランスの高校で日本語を学んでいる高校生がチームを作り「私たちの考える日仏交流 日仏をつなぐ / つないだ〇〇」をテーマに日本語でプレゼンテーションを行います。また昨年に引き続き、日本でフランス語を学ぶ高校生1チームの発表もあり、日仏高校生の交流の機会にもなっています。当日は一般の方々にもプレゼンテーション大会の様子をご覧ください。入場予約は事業実施日1か月前から当館HP上で受け付けます。

大会ページ：第3回大会の様子：https://www.mcjp.fr/fr/agenda/journee-inter-lycees-dexposes-en-japonais-2019 お問い合わせ先：nihongo.contact@mcjp.fr

【日本語講座】

当館では、外国語としての日本語を学ぶ日本語講座(入門～中級)を開講しています。次期講座(2020年春学期)は2020年3月3日～7月2日、受講登録は1月27日締切です。詳細は以下のサイトにて順次お知らせしております。

http://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais

※すでに日本語を学習している方は、プレースメントテストを受験していただき(無料)、レベルに合うおすすすめクラスをご案内します。お申し込み、お問い合わせは「日本語講座」までお願い致します。

国際交流基金関西国際センターでは、日本語eラーニングや学習者コミュニティなどが利用できるサイト「みなと」(https://minato-jf.jp/)を開発しており、「まるごと」をオンラインで学習できるコース(A1～A2.2レベルが開講中)を始め、ひらがな・カタカナのコース、まんがや俳句をテーマにしたコースなど、多彩な日本語オンラインコースを開講中です。

・まるごと自習コース(レベルA1.1, A1.2)

お好きな時間にお好きな場所で一人で学べる無料コースです。フランス語版も開講しています。初めて日本語を学ぶ知人・友人の方にぜひご紹介ください。詳細や登録方法については以下をご覧ください。https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

・まるごと教師サポート付きコース(レベルA1.2)

まるごと自習コースに、フランス語によるライブレッスン、課題添削、オーラルテストなどの教師サポートがついた有料コース(120ユーロ)です。まるごと教師サポート付きコース(レベルA1.1)を修了した人が同等の日本語能力(あいさつ、自己紹介など)をお持ちの方向きです。募集は2月14日～3月2日まで。詳細は2月14日以降に「みなと」(https://minato-jf.jp/)をご覧ください。

【日本語しゃべろん】

当講座では、日本語講座受講生とフランス在住の日本人との会話サロン「日本語しゃべろん」を定期的に開催しており、参加して下さる日本人の方を募集しております。次回は3月後半を予定しております。詳しくは、当館ホールや図書館に設置するチラシ等にてご案内致します。お問い合わせは日本語講座まで。

【短期コース】【旅行の日本語 Parler le japonais en voyage】

日本旅行の前に、簡単な日本語を学習しておきたい人のための、初心者向け短期コースです。日本語学習未経験者の方を対象としています。お知り合いのフランス人の方にぜひお勧めください。

日時：3月3日(火)・10日(火) 18時45分～20時45分 *2日間(合計4時間)の講座です。
申し込み先：https://www.mcjp.fr/ *申し込み開始は開講1か月前の予定です。

<パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ>

問合せ：TEL 01 44 37 95 01 FAX 01 44 37 95 15

所在地：101 bis, quai Branly, 75015 Paris

http://www.mcjp.fr/

*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。





より正確に、より易しく、より詳しく！
各種トラブルに専門家が答える

Plafond de Sécurité Sociale, SMIC, MG

●Sécu (2020年1月1日-12月31日) 月額：3428 年額：41136
●SMIC 時給：10.15 月額：1539.42 (brut/週35h労働)
●MG 3.65 *単位はユーロ

滞在相談室からの報告：

SMICその他の数字・指標と各種の滞在許可証 (5)

新年、明けましておめでとうございます。

2020年度SMIC数字が発表されましたので、その数字と滞在許可証との関係に再度触れておきます。

(1) 2020年SMIC数字(2020年1月1日～12月31日に適用) 2019年12月18日付政令(DERET)で発表されています。()内は2019年度の数字、単位はユーロ。

時給額 10, 15 (10, 03)
月額(週35h労働) 1539, 42 (1521, 22)

政令(DERET)で発表されているのは、以上の二つの数字でBRUT(額面数字)です。計算数字として、NET(社会保障負担費などを差し引いた手取り額)があります。

時給NET 7, 82
日給NET 54, 71
月額NET 1185, 35

また、年額は、18473(BRUT)、14224(NET)になります。

SMICは、当欄で既に記したように、極めて重要な指標数字です。数例を挙げれば、

- ①「少なくとも月額SMICの2倍以上の給与が支払われる労働契約」
(PASSEPORT TALENT 第1項のSALARIE QUALIFIE)
- ②「少なくとも月額SMICの1.8倍の給与が支払われる労働契約」
(PASSEPORT TALENT 第3項のSALARIE EN MISSION)
- ③「少なくとも年額SMIC相当の収入が見込める職業活動」
(滞在身分ENTREPRENEUR/PROFESSION LIBERALEが発行・更新される条件)

(2) MICRO BNC(続き)

MICRO BNCは、PROFESSION LIBERALE(自由職業者、以下PL)向けの税法上の制度(REGIME)です。年間収入が上限70000ユーロ以内である場合、その34%が自動的に職業経費として認められます。例えば、この1年間の職業収入が20000ユーロだったとします。所得申告用紙(2042C PRO)のMICRO BNC欄に20000ユーロと記入すれば、税務局側は、その34%に当たる6800ユーロを差し引いて、「あなたの実質収入は13200ユーロです」と計算します。「34%では引き合わない。私の場合は、50%は経費がかかっている」という場合は、

REGIME FRAIS REEL=REGIME DE LA DECLARATION CONTROLEE(職業経費実額方式)を選ぶことができます。この場合は、当然、経費明細書が必要になります。

このあたりの事情は、所得申告の締切り時期直前の4月下旬あるいは5月上旬に「所得申告説明会」で説明していますので、ご利用ください。

(3) 次に、REGIME MICRO BNCで大切なポイントはTVA(付加価値税)です。

PLにあっては、仕事の報酬をFACTUREで仕事先に請求しますが、その請求書には、TVA NON APPLICABLE, Article 293B du CGI

「CGI(CODE GENERALE DES IMPOTS)第293B条によりTVAは適用しません」を記さねばなりません。(以下次号)

文責 滞在相談室 岡本 宏嗣



日本人会シャンソン教室
車椅子でコンサート!

去る12月1日、寒い日曜日に、私たちの第20回シャンソン・コンサートが開かれました。ミュージカル作家/演出家/舞台俳優のDidier Baillyを先生に迎えてシャンソン教室を始めたのは今から21年前でした。以来、教室の発表会は40席のライブハウスから70席のピアノバー、150席のプロテスタント教会ホール、220席のモンパルナスの劇場を経て、今回はサンジェルマン・デプレの317席のホールを満員にするまでに成長しました。

お客様は半数以上がフランス人。シャンソンの古典ともいうべき曲を日本人のわれわれが深く愛して歌い、その心が、その感動が伝播し、日仏の心が解け合うひとときです。

毎年、教室メンバーの一人ひとりが自分の歌いたいシャンソンを選び、個人レッスンを受けて、曲を完成させていきます。今回のソロは27曲。合唱2曲。Didier先生は、これらのシャンソンに友情出演のプロのフルートとサクスを巧みに組み合わせ、寸劇やタップダンスを交えて、詩情とユーモアに満ちたユニークな世界を、まるで魔術師のように、作り出します。

先生のイメージする世界を現出しようと、出演者が心を合わせて一つの舞台を作り上げていく、その過程が面白いのですが、その練習のためには、出演者は日程のやりくりにかなりの犠牲を強いられます。そんな中で、私はなんと、コンサートの一か月前、リハーサル会場の階段を踏み外して足を骨折してしまいました。全治三か月の重傷と言われ、目の前が真っ暗になりました。一年に一回しかないお祭りだというのに!

幸いにして術後の経過は順調。仲間の理解と絶大な協力のおかげで、当日は車椅子で登場することができ、なんとも思い出深いコンサートになりました。ご声援有難うございました。

次回も皆様楽しんでいただけるコンサートを目指して、一年間、練習していきます。

シャンソン教室代表
田中千春

新刊案内、アトリエやイベント情報は

@JunkuFr



営業時間 10時～20時 月～土

Librairie japonaise JUNKUDO
18 rue des Pyramides
75001 Paris France
Tel: 01 42 60 89 12
Mail: contact@junku.fr



『麒麟がくる 前編』
NHK大河ドラマガイド
NHK出版 刊

発売中

文化教養学園幼稚園パリ分園

1981年開園。日仏の文化にふれながら豊かな情操を養います。
3年保育。2才児特別クラス。
水曜クラス。各種幼児教室も併設。

10 Rue du Bouquet de Longchamp 75116 Paris

TEL.FAX 01 4553-7895

お問い合わせは雁金まで

http://www.bounkakyoyoparis.com/

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談(会員のみのみ)

*要予約(電話に限る): 01.47.23.33.58

法律相談(フランスの法律問題)(相談料5ユーロ*)

3分野の弁護士が担当。①結婚・離婚など、②雇用・労働など、③相続・不動産その他1月25日(土)、法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類を持参ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談

1月30日(木)、2月13日(木)、2月25日(火)

滞在・労働・商業の3許可、自由職業(PL)、滞在身分の変更、SECURITE SOCIALE、フランスの年金/日仏社会保障協定など各種ジャンルの相談に応じます(関連書類がある場合は必ずご持参ください)。

健康相談

お問い合わせください。日本語の堪能なDOUIEB医師(内科・産科)担当。

保険相談

2月4日(火)

住宅・自動車から疾病・老齢保険まで専門家があらゆる相談に応じます。毎月第1火曜日

無料メンタル・カウンセリング

毎月第3金曜日10h~17h

場所: 邦人医療相談室 59, Bd. Victor 75015 Paris

担当: 太田博昭医師(精神科)

カウンセリング希望の方は直接TEL:01-4533-2783に予約を入れてください。なお上記の日時以外のカウンセリングは有料です。

日本人会子ども発達相談室

子どもの発達に関する相談に応じます。

相談日など応相談。会場: 日本人会

相談員: 認定心理士 折口志都、臨床心理士 関口弥希。kodomofr@gmail.com

クラブ活動

ふらんす俳句会

毎月第2日曜日14hより定例会、パリ国際大学都市「日本館」にて。有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。1回目の見学無料。

連絡: 鈴木 みどり メール: midori.s@free.fr

子ども図書館

読み聞かせ 毎週水曜日15h~17h。日本語児童図書の出貸・返却は随時。入会金2ユーロ

S.O.S.ママクラブに入会しませんか?

母親間の親睦を図る相互託児システムのクラブ。入会申込書は日本人会へご請求ください。TEL 01-47-23-33-58

女声コーラス「みもざ」

仲間とハモって、楽しいひとときをすごしませんか。

日本の歌、ミサ曲など。毎週火曜14h~16h30。Centre Catholique Japonais de Paris / 4 bd Edgar Quinet 75014 Parisにて。frmimosaxb.jpを参考に。

連絡TEL 06-76-41-79-61(長谷川)、メール:mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ(NAC)

日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。NAC月例親睦会LE GALLIERAカフェにて毎月第1木曜18h~20h。飲み物代各自負担。詳細は日本人会までお問い合わせください。

マロニエの会

毎月第2火曜日15h~18h茶話会、第3日曜日&第4水曜日14h30~国際大学都市「日本館」で月例会。会報を年3回送付。年会費15ユーロ。連絡TEL: 01-46-58-57-99(安本) 01-49-15-08-73(二口)

ソフトボール大会

春秋の年2大会あり。年齢・性別・国籍に関係なく、個人またはチームでの参加可。

連絡実行委員長 代理 橋本 勝義 TEL: 06-14-73-37-31

キッズテニス

ARJ16 Tennis Club (Stade Henry de Montherlant パリ16区)

毎週月、火、金曜日 小学生から高校生まで11クラス

毎週木曜日マクララス 2クラス

お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

各種講座

書道同好会

毎週木曜日の16h~17h30 参加費: 月20ユーロ 代表: MARTIN安本年子

TEL: 01-46-58-57-99 国際大学都市「日本館」で15h30~17h30

くもん日本人会教室

水曜日14h30~17h40 土曜日10h30~15h00 詳細はTEL: 06-5252-2801(石川)

パソコン教室

連絡先: シュークルキューブ テクノロジーズ 担当: 佐藤 TEL:01-45-20-86-81

FAX:09-59-81-59-63 メール:education@sucrecube.fr

http://www.sucrecube.fr

パリきものレッスン 入門コース

毎月第2・4 土曜日15h00-18h00、40ユーロ/回。

着物の着装を初めての方から楽しく学べるコースです。

講師: 山田美佳 問合せ・予約 Tel: 06 82 68 87 35 mika.france@icloud.com

於 日本人会、定員4名、HP www.paris-sodo.com

お持ちいただくもの: 1.肌襦袢 2.長襦袢 3.腰紐(4本) 4.衿芯 5.伊達締(2本) 6.着物 7.襟留め 8.コーリンベルト 9.帯 10.帯板 11.帯枕 12.帯揚げ 13.帯締め 14.足袋 15.タオル(2枚)

※着物や帯・小物などの貸与可

シャンソンDidier教室

第2・4土曜日16h15~17h45

場所: Auditorium Saint-Germain

住所: 4,rue Félibien 75006 Paris

年会費100€ レッスン1回8€(非会員は15€)

連絡先: ch.tanaka@orange.fr

01 4329 5235 / 06 0383 2674 (田中) 01 4229 1072 (山口)

太極拳・気功教室

上・中級クラス 日曜17h~18h 初級クラス日曜18h~19h 会場: 54,rue Emeriau 75015

Paris 参加費: 40ユーロ/月4回。非会員も参加可。但し45ユーロ/月。太極拳・気功の他に簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理の知識等も指導。講師/連絡先: ラン光旭 (パリ第6大学医学大学院利気功・太極拳講師)

TEL:06-69-43-54-45 メール:rangx@yahoo.co.jp

健康と美・ウォーキングレッスン

元パリミラノ東京コレモデル/現役モデルによるウォーキング・写真のポーズ・メイキャップ・Before & Afterなどニーズに合わせた個人レッスン。(コース3回会員

180ユーロ・非会員別途料金) 詳細はお問い合わせください。講師: 北幸子 (Master

Models,Oasis Styling) facustudio@gmail.com TEL:06-2296-0655

フランス語朗読会

参加費: 週1回1時間8ユーロ。1回目は無料。5回を1サイクルとし、2回目までにあと5回分(40ユーロ)をまとめてお支払い。スカイプでの受講も可。(詳細はお問い合わせください) 場所: Place Monge界隈(パリ5区) 時間: 月・水15h30~16h30上級、金15h~16h中級、金16h15~17h15。

お問い合わせ: ch.tanaka@orange.fr(田中千春)

子供のための習字教室

土曜クラス: 毎週土曜12h~13h、13h30~14h30。場所: 日本人会 授業料: 月毎

に前納払い(1回15ユーロ)(日本人会会員料金)。入学随時受付。

お問い合わせ: 六藤佳世子 06-22-53-74-18 kayoko94000@yahoo.co.jp

日本館茶の湯同好会

場所: 国際大学都市『日本館』

稽古 月3回月曜日14h30~18h30 参加費10ユーロ

茶の湯の会 随時

初心者向稽古 土曜日午後

詳細はメールにてお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。(高木宗悠)

nihonkan.cyanoyu@gmail.com

成人学習者向け日本語講座

第2、第5土曜日10h00~12h00 Faux débutantのクラス 会場: 日本人会 問い合

わせ&申し込み: nihongocafe022015@gmail.com

ヨガ教室

日時: 月曜日10h30~11h30、火曜日10h30~11h30/19h~20h、木曜日16h~

17h 会場: パリ7区 対象者: 全てのレベル 参加費: 1時間30€から

講師: ラロッシュ・アメリ 問い合わせ・申込み: info@vacances-amelie.com (日仏)

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。

日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/>

amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/>

日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランボーラボロスへどうぞご連絡下さい

91, rue Saint-Lazare 75009 PARIS

TEL.01.53.32.20.00 まで

FAX.01.42.85.04.65

M 大隈良典先生の名前を聞いたことがありますか。
E 最近ノーベル生理学・医学賞を受賞した先生ですか。
M そうです。2016年に受賞しました。
E でも、きっと専門家のための難しい研究で、私たちは理解できないでしょう。
M 確かに難しい研究ですが、大隅先生の発見は私たちの日常生活と直接的な関係があります。
E どういうふうに。簡単に説明できますか。



大隈良典 (1945-)



Christian René de Duve (1917-2013)

M オートファジーとは何ですか。
M オートファジーはギリシャ語から作られた言葉です。ファジーは食べる意味で、オートは自分、自分の自身を食べる意味です。つまり体は自食しながら再生できます。
E それは変な話ですね。大隅先生の発見ですか。
M 実はその現象を発見してオートファジーと名前を付けたのはベルギーのクリスチャン・ド・デュヴ* (Christian de Duve) 教授です。その発見で彼は、1974年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。
E では大隅先生の研究は何ですか。
M まだはっきりしてなかった仕組みを解明しました。
E そんなに大事なことですか。
M 健康を保つため、老化を防ぐため、とても大事です。説明します。全ての生き物と同様に細胞は栄養を吸収してからゴミを出します。そのゴミ、古くなったものと毒素が細胞に溜まって、病気の原因となります。パーキンソン、ガンやアルツハイマーなどです。
E では掃除をしなければなりませんね。不要なものを取り除くため。
M そうです。幸いにも細胞内で素晴らしいシステムが動きます。ゴミからアミノ酸を取り出して再利用できます。つまりゴミはリサイクルされます。
E そのリサイクルを働かせるにはどうすればいいですか。
M それは断食です。細胞は生きるためにタンパク質とアミノ酸が必要です。食べ物を与えないと細胞は自分の中に溜まっているゴミと毒素を利用します。そうすれば体の老化、そして、それに伴う病気が避けられます。



Michel BRUNEAU

(ミッシェル・ブリュノー 会長) 当会フランス語講座講師

1978~98年日本に滞在 元上智大学講師

E でも断食はつらいです。
M 長い期間の断食は必要ありません。16時間もしくは18時間の断食で十分です。例えば週に一回、または二回朝食を抜かしてそして間食しないこと。
E その後の食事というのは、本当の意味での « dé-jjeuner », つまり断食をやる事です。

M 英語の « break-fast »も同じ意味です。もし夜遅く食べて、朝起きてすぐ食べたなら « dé-jjeuner » ではありません。断食が全然ないからです。

E そのぐらいの断食は簡単ですが、本当に効果的ですか。

M 効果があるらしいです。オートファジーについて一つ付け加えます。オートファジーを発見した人はクリスチャン・ド・デュヴ教授だと言われています。確かに彼はオートファジーの命名者ですが、きっと彼は19世紀の有名な生理学者クロード・ベルナル** (Claude Bernard) を知っていました。クロード・ベルナルの『実験医学研究序説』に次の実験が記されています。ウサギの尿はすべての草食動物と同様にアルカリ性だけれども、しばらくの間食べ物を与えないと(断食状態)、尿は酸性になる。つまり肉食動物の尿になる。彼は次の結論を導き出します。ウサギが自分の肉を摂取している、と。これは、全くオートファジーの定義です。しかしクロード・ベルナルはオートファジーという言葉を使いませんでした。そして、健康におけるオートファジーの重要性を理解しませんでした。



Claude Bernard (1813-1878)

E 私たちはオートファジーの仕組みがわからなくても細胞内のゴミを分解してリサイクルするシステムが存在していることだけを覚えて上手く利用すればいいでしょうね。大隅先生ありがとう。感謝します。
M でも、ド・デュヴ教授とクロード・ベルナルを忘れてはいけません。

*クリスチャン・ド・デュヴ (Christian de Duve) 1917-2013 : ベルギーの細胞学者、生化学者。1974年クロード、ジョージ・E.パラーディとともにノーベル生理学・医学賞受賞。
 **クロード・ベルナル (Claude Bernard) 1813-1878 : フランスの医師、生理学者。

(写真はwikipediaより転載)

2019年テニス一般クラスのトーナメントが、無事に終了しました。



優勝
 山野順子/小津律子 組
 準優勝
 小林千春/Bastelica佳子 組

寒い日が続く毎日、この日だけはお天気に恵まれて一般クラス総当たりの大会を開催しました。初試合のメンバーもベテランにアドバイスを受けながら、これからのモチベーションに繋がる経験になったと思います。特に準優勝と三位の試合がタイブレークまでの接戦で、最後までどちらが勝つか分からない試合でした。表彰式の後には、冷えたシャンパンで仕上げました。



2019年 キッズテニス・トーナメント結果



←小学生初心者クラス
 優勝 高野ルイ
 準優勝 伊藤ゆうこ
 三位 森田まあや

オレンジボール チャレンジクラス→
 優勝 内藤けいいちろう
 準優勝 山野あいか



←中学生クラス
 優勝 西ひまり
 準優勝 小津かな

小学生中級以上クラス→
 優勝 山口りりか
 準優勝 扇しょうたろう
 三位 西村ゆい



終(ついで)のデザインのススメ

己の最後を決めるための
日本における相続・遺言の基礎知識(35)
(日仏間も視野に入れて)

遺言の点検

年初ですので、相続法関係の改正の話題は閑話休題し、以前お伝えした「年初に遺言を書こう!」に続き、今回は書いた内容について年初に「点検」する、このことの大事さについてお話しします。

◆死ぬ順番は、わからない

死ぬ順番、こんなことを考えてみたことはあるでしょうか?

せっかく遺言を書いたが、あげよう(相続/遺贈)と思った相手が自分より先に死んだ、ということは起こりえます。法律上は、あげる予定の財産やその割合分は、“法定相続”の対象となるだけで、これで何らの問題がなければよいのです。実際はこれが良くないから遺言をわざわざ書くのだ、ということかと思われまます。

◆残したい人とそうでない人がいる

次のような例で考えてみましょう。

遺言者Aさんは4人兄弟姉妹の3番目。それなりの財産がありますが、夫には先立たれ子はいません(両親も先死)。つまり、相続は、兄弟姉妹(甥姪)相続のパターンが想定されます。

推定相続人は次の者です。一番上の兄(先死)の息子1人(甥X、音信不通)。2番目の姉B(施設入居中、重い認知症)。弟C。

人間関係は、姉Bの子3人のうち1人(甥T)はアレコレと未亡人Aさんの相談に乗りAさんも我が子のように頼りにしてます。弟CとAさんは昔から仲が良く家も近所でお互い助け合ってます。

Aさんは、“せっかく財産を残すなら、世話になった人にだけあげよう”と遺言で、弟Cと姉Bの息子(甥T)の2人に対して、「自分の財産全てを等分に分けて相続(または遺贈)せよ」との遺言を書きました。つまり、一番上の兄の息子甥Xと姉Bには財産を残さない(認知症の姉の分はその息子Tにあげれば問題なし)という趣旨で書いたのです。兄弟姉妹(甥姪)相続ですので、遺留分の心配はなく法的にこれで問題はありません。

ところが、この遺言を書いた1年後に不慮の事故で甥Tが急死。我が子代わりの頼りの甥Tの死に大いにショックを受け、Aさんはうつ状態になったほどでした。この後、姉Bも死亡し、5年後にはAさんが死亡。Aさんの遺言は一切修正されておらず、亡くなった甥Tの名前もそのまま残っていました。

◆遺言の点検時に確認すること

遺言の中で、受遺者(相続人以外の遺言で財産をもらう人)が、遺言者より先に死亡したら、その指定された遺言の内容は失効し、特別な定めがなければその分は法定相続の対象となります。

上述の例では、遺言に従い弟Cが全財産の2分の1を受取り、残りの2分の1に関して甥Tが死んだ場合の記載は一切なく修正もなかったため、法定相続として扱わざるを得ません。

相続人は、甥Xと姉Bの子2人(死亡した甥T以外の者)、弟Cの4人。この4人で残りの2分の1の相続財産を法定相続するか、遺産分割で分配方法を全員一致で決定します。疎遠になっていた甥Xを探すのもなかなか大変、ということもありません。

Aさんにとって一番無念なことは、せめて甥Tの子供達にTの分である財産の半分が承継されればよかったでしょうが、姉Bの死亡により甥T以外の子2人がBの分を代襲相続しこれらTの子には一切承継されなかった点ではないでしょうか。

まとめると、遺言の点検ポイントは、「あげようと思っている人がもし自分より先に死んだら、その分は誰にあげるか?」ということを考える、ということです。

自分の年齢があがるほど兄弟姉妹の先死の可能性も高まります。推定相続人以外の者も先死の可能性はありますから、相続、遺贈の対象として誰かを指定した場合には、必ず、もしこの者が先に死んだら誰にどういう風に継がせるか、を検討することが重要です。

すでに記載した遺言が上記の点につき十分な指定・特定がされてなければ、ぜひ、書き直しをしていただければ、と思います。せっかく書いた遺言が、自分の想定しない結果を招かぬようにしていただきたいものです。



司法書士 桑瀬 登起子(くわせ ときこ 会員)
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445/FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区三栄町7-3-202号



馬文化を通して日本を考える (10)

馬さん、馬さん(2)
東京五輪の展望 その2

一時帰国中の楽しみはJR山手線有楽町駅京橋口を出、線路脇にあるボロというメキシコ呑み屋へ行くこと。オーナーの渡辺博社長は本物の上級ライダーのホースマン。私等のような乗馬目的の中級ライダーではない。日本の乗馬クラブの殆どがアメリカン乗馬とブリティッシュ乗馬しか知らないのて教えていないが、前者の元はスペイン馬術であることを認識してもらいたくスペインでの外乗を含むヘレスの馬祭りや闘牛馬術を観戦してもらった。渡辺さんの店で海外での乗馬企画を手掛けているフリーダムライディングクラブの田中雅文会長や三越本店内の馬具店ピアッフエの長尾社長等と馬の映像を観ながらあだこうだと言いながら飲みあうのは楽しい。

渡辺さんから教わることは多々あるが今回の東京五輪では障害でも総合馬術でも日本がメダルを取ることはまず不可能という。人馬一体とは言うが馬に意志を伝えるのは乗り手。成績が良くとも悪くとも全ては騎手の責任。

クーベルタン男爵の近代オリンピック開始以来フランスが取ったメダル数が多いのは自転車、フェンシング、柔道である。フランス国民が行うのはサッカー、テニス、乗馬の順だと思うが女性のみに限ると圧倒的に乗馬が多い。日本とは比較にならない程層が厚いのだ。フランス人の騎手が300の意思を馬に伝えたとしたら日本人の騎手はせいぜい100位といったところが実情だという。

1932年ロサンゼルス大会で大きなドイツ・ハノーバー種の馬で西竹一男爵は金メダルを獲得。写真は現存する。当時は中尉だったが後に中佐、没後大佐に昇格。

硫黄島で玉碎した西中佐についてはクリント・イーストウッド監督の「硫黄島からの手紙」を御覧ください。

さて、フェンシングは、ハンガリーで盛えた馬上から斬るサーベル(怪傑ゾロが使う剣)、ルネッサンス期にイタリアから入ってきた突き刺すの剣エペ、以降フランスが主流になった突き刺すフルーレと3種あり、フェンシング公用語はフランス語。90年代まではフランス、ドイツ、イタリア、ロシア、キューバ等が上位を占めていた。キューバはソ連が崩壊した後メキシコと上位に上ってきたが、多分、カストロとの政治的友好関係だろう、旧ソ連のコーチがたくさんキューバで教えていた。東アジアでは1988年のソウル大会を目指す韓国、そして中国も2008年北京オリンピックを目指し、国が多額の援助金を出して選手団強化のためフランスに選手を送り研修させていた。

それ迄日・中・韓が一番弱かったのが日本。日本が弱かったのは、層が薄いと良いコーチがいなかったこと。レベルアップするにはその点の解消しかなかった。そして若い生徒を集めるにはこのマイナーなスポーツをポピュラーにせねばならず、そのためには強い選手を育て、良いコーチを欧州から招かねばなりませんでしたが、2008年北京五輪で森永製菓の太田雄貴が男子フルーレ個人で銀メダル、2009年世界ランキング1位を獲得。以来太田に続けと女子エペの中野選手がアジア大会で個人での銀、千田選手など有力な選手は多かった。

男子フルーレの世界選手権はパリのクーベルタン体育館で毎年1月に行われる。90年代までは日本は団体が当時高校生だった太田君が勝った得点を警視庁等のフェンサー達が奪われ惨敗したものだったが見る人は見ている。対戦後高校生の太田君にサインを求めている人が多かった。可哀そうなので雨の中だったがサンタンヌ通りの来々軒に皆でラーメンを食べに連れて行った思い出がある。元々日本には剣術を鍛える伝統があるのでまだ伸びる。毎年2月にある中高生対象のジュニア選手権で昨年は日本が優勝した。これから彼らが伸びてくる。今回の東京五輪では今世代の、男子では見延和靖と敷根崇裕両選手、女子も宮脇花輪選手は注目に値する。

文責: 竹本 元一 06 10 45 89 77 takemotomotoichi@yahoo.fr

特別連載 パリの画家たち

時の流れ(1) (全2回)

川辺 孝雄



アトリエにて

マルシェからは威勢のいいオヤジの声が響き渡り、パン屋から甘い香りが漂い、街角のカフェではエスプレッソを立ち飲みする常連客でにぎわっている。そんな光景の1972年、私は仲間4人と一緒にパリに着いた。丁度、いまだに記憶に残る連合赤軍による浅間山荘籠城事件の年の4月でした。

小田実の「何でも見てやるう!」に刺激され、「ヨーロッパを北アフリカをこの眼で確かめたい!」が動機と目的で、絵描きとは全く関係のない第2の人生の始まりだった訳です。

美大を卒業後デザインの仕事をしていた関係上、ヨーロッパの斬新なデザイン感覚を体感すべく今回の旅、ドイツで車を購入、乗ってみると助手席側のサイドミラーが無い、問い合わせるとオプションだと言う(スペアタイヤ、ラジオも無いのが当たり前)確かに走ってみるとサイドミラーのない車が多い。慣れれば問題はないが、これから続く6ヶ月間の車の旅の始めに、早くも習慣の違いを知らされた思いでした。

ノルウェーの小さな漁港では泊まったホテルの主人が得意げに「この間日本人がここに泊まったぞ」と宿帳を持って来た。見ると確かに日本語で名前が記されてる、がよく見ると3年前の日付、日本とは違う時の流れ、テンポの違いがヨーロッパに存在する事を実感。また旧ユーゴスラビアの田舎のレストランで、お店の客から「何処から来たの? 何人か?」と聞かれた。「じゃ、当ててごらん」何気ない会話から始まったお遊びが、とんでもない事になる。「ドイツ人? フランス人?」「いやいや」当てっこは続く「ギリシャ人?」まんざらでもないな! 「じゃアフリカ人?」絶句!

今までの会話に何の根拠もない。当然の事ながら日本が何処にあるのかも知らない、このままでは済まされないの、地図を持って来させた。ページが途切れんばかりの端っこにひし形一つのJapanがありました。これは北海道か?

明治維新、榎本武揚が函館を「蝦夷共和国」として独立を宣言し、諸外国も短い期間この名称を公として認めた期間があった事を思えば何の文句も言えないのですが、今はこの教科書も日本が4つの島から(?)成り立っている事を祈ってます。

私の最初の絵のタイトルが「時の流れ」でした。

初めて接したヨーロッパで時空間、体感、経験した事の影響は大きく、私にデザインから絵に転換する機会になった事は疑う余地もありません。



2010年制作

*山崎孝先生の「クーブラン特集」は休載いたします。

グローバル時代のコミュニケーション

～国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション～

【第16回】

みなさま新年おめでとうございます。大山です。
令和2年、今年のお正月は比較的あたかなお正月でした。
日本はオリンピックイヤーでわさわさしています。
パリではストライキが続いているようですね
穏やかな1年になってもらいたいですね。

さて今月も早速お話ししていきたいと思います。

このコラムでは、これまでの私の経験体験から、グローバル人材に必要な考え方やスキルのベースとなっているものについて、私なりの考え方をお話してまいりました。そしてその集大成であるコーチアプローチファシリテーションについて解説しています。

コーチアプローチファシリテーションは次の5段階のステップから成り立っています。

1. 人間の本質を知り、「人間力」を鍛える
2. コミュニケーションの基本「聴く」「承認」を実践する
3. 相手の感情に寄り添い、個人の成長を支えるコーチング能力を鍛える
4. 「場」を創り、チームメンバーに相乗効果を発揮させるファシリテーション能力を鍛える
5. これらを効果的なスキルへと発展させ、実践する能力「コーチアプローチファシリテーション」を鍛えるです。

さて前回に引き続き、継続的なコーチングをうまく行うためのコツについての第2弾のお話をしたいと思います。

前回重要なのは目標の明確化であるというお話をさせていただきました。そしてこの目標がありありとイメージできれば、コーチングはほとんど成功と言っても良いというお話をさせていただきました。うまく言っているイメージさえできれば、第11回でお話させていただいたように、人間はイメージと本物の区別がつきませんので、イメージどおりに行動が起きるので。

さてコーチングのコツの話をもう一つさせていただきますと思います。

初心者のコーチが陥りやすい事は、沈黙を怖がることです。普通の会話では沈黙があると、なにか気まずい雰囲気となるため、なるだけ会話を続けようとしします。一般的な会話ではそれでよいのですが、コーチング時は少し違うのです。

コーチングは質問によって相手が考える事が重要です。良い質問により相手が考えだすと会話が止まり沈黙の時間が現れます。

なれないコーチはこの沈黙の時間が怖いので、何かしら話しかけて、会話が途切れないようにやってしまうということです。

例えばあなたが「どうなっているのが理想かなあ?」と理想について問いかけたとします。部下は「えーっと」考えだすとかならず沈黙の時間が流れ出します。

そうすると、沈黙が怖いと「えーっと理想っていうのはね、難しく考えないで・・・こういう視点は・・・」などと考えている相手に新たな質問をかぶせてしまいがちです。

そうするとせっかく考え出した相手の頭のなかは、考えを中断して、またあなたの話を聴いて、また新たに考えを始める・・・つまり考えられなくなるのです。新たな問いは、考えを中断させてしまうのです。

ですので一旦質問を投げかけたら、ニコニコ笑いながら相手が考え、まとめ、話したのをじっと待つことが重要なのです。沈黙を怖がらないこと。これがコーチングのコツの第2番めです。

しっかり待って考えさせることができれば、相手は、自動的にいろいろなことに気づき、行動を決めて行ってくれます。沈黙を怖がらずに部下が考える時間を十分に与えてください。

このことが、相手を成長させていくうえでとても重要なのです。

次回もコーチングのコツについてお話を進めていきたいと思います。

続く・・・

大山裕之 コンティニュー株式会社 代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟 理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

場所と

人の出会い

【25】

ヴァン・ゴッホと
オーヴェル・シュル・オワーズ



Vincent Willem van Gogh 1853-1890



「どうしてフランスへお越しになられたのですか？」とよく聞かれる。返答に困りながらも、一応「フランスのカラッとした乾燥した気候が好きで」とか、「食べ物やワインに興味がありまして」などと答える。しかし、よくよく考えると、自分はヴァン・ゴッホの描いたアルルなど南仏の景色が好きだったからなのではないかと、今更ながらに思い出す。

私が南仏を初めて見たときは強烈な印象だった。それはフィンセント・ヴァン・ゴッホ(以後「彼」で代用)の絵画の世界に触れた時も同様だ。彼が浮世絵に強い関心を示して、南仏アルルに行ったのは、南仏の強い光が、平坦な色面の浮世絵の世界と重なっていたからで、実際に彼は「日本へ行く」と感じていた。私がアルルなど南仏を目指してフランスへ来た動機になったのと、真逆っていいのかわからない。私にとってのフランスは、あの南仏の鮮やかな色彩、明るい光がフランスだと思っていたのだ。



「オーヴェールの教会」は、オーヴェールに来て間もないころに描いた。彼は身近に接した教会を何度も描いている。彼は1890年6月5日に妹に送った手紙に「これは、村の教会を描いたとても大きな絵だ。純粋なコバルト色の、混じりけのない濃い青色の空を背景に、建物は紫色がかっている。ステンドグラスの窓は群青色に見え、屋根は紫色で一部オレンジがかかっており、前景には花の咲き乱れた草木とバラ色に輝く砂を置いた。又エネン[彼の育った村]で古い塔や墓地を描いたいくつかの習作とほぼ同じだが、おそらく色使いは今の方が生き生きとして素晴らしいものになっているはずだ」と書いている。不安定な心を反映しているのか、画面全体がうねるような筆触で覆われ、石造りの教会まで、呼吸しているかのように揺らいでいる。色彩はより鮮烈になり、日射しを感じさせる前景と闇を連想させる背景との対比が豊かな輝きを放つようだ。前を農婦が歩いているが、不思議なことにオランダの女性だ。彼女はオランダの晴れ着用の帽子を被っていることからわかる。彼はイメージでは描かない画家だが、ここでははるかなる故郷を思い出して描いている。この女性の腰は大きな腰をしている。彼にとっての女性とは大きな腰を持つものであり、つまりこの女性は母性として描かれている。故郷の母を思うのか、愛を求める彼の孤独さゆえか。彼はこの2か月後、ピストルによって37歳の若さで命を絶った。その時弟テオは仕事に行き詰まり、テオ夫婦の子供は病気にかかっていた。弟思いの彼は、自分への仕送りが弟夫婦には負担だったことをおもんばかったのだろうか。果たして自殺だったのだろうか?とも言われている。



今回は、その彼が1890年5月に2年あまり住んだ南仏をあとにして、パリ郊外のオーヴェル・シュル・オワーズに移ってきたことについて書きたいと思う。ゴーガンとの決裂を引き金に、彼は定期的に精神障害の発作に襲われるようになり、自らサン・レミの療養所に入院、その後パリの郊外であるオーヴェル・シュル・オワーズに移ってきた。ここオーヴェールには精神科の専門医であるポール・ガシェが住んでいた。ガシェは自らも趣味で絵筆を握り、画家モンティセリとも親交があった。セザンヌ、ルノワール、ピサロらの作品も所蔵していた。ピサロの薦めで、弟テオはガシェと連絡を取り、兄フィンセントの世話を依頼した。ガシェは快く彼を引き取り、彼に絵の制作を促した。ガシェ医師のもとで転地療養することになった。南仏を去って、北へ来たのは望郷の念に駆られてオランダに近づきたかったからなのかもしれない。オーヴェールに移って3週間後、「ガシェは自分の本当の友達だ」と書いている。彼は発作の恐怖に怯えながらも、精神的に制作に打ち込み、亡くなるまでの70日間で80点ものすばらしい風景画や肖像画などの絵画を描いている。彼にとって心の慰め、力を与えてくれる宗教の様な存在であった自然は、しばしば彼の作品の主役を務め、とりわけ麦畑や積み藁、花が咲き乱れる庭などがよく描かれた。



(文：フランス公認日本語ガイド 星野守弘)



自選句集 124

(順不同)

新会員募集

追いつめし熊仁王立ち冬の雷

雨 緑

木枯らしや墓碑の銘文「志」

勝 義

読み返す一行一句夜半に冴え

ゆ り

時雨るればランボー愛すラ・ポエム

佳久子

時雨るるや五人目の友パリに逝く

佳久子

時雨るるやか細き君の背を思ふ

順 子

時雨るるや芭蕉の恋に思ひ馳せ

郁 子

木枯らしに負けずと着込むばあばなり

春 代

大根の半身のり上げ黒き畝

ちづ子

2020年新春フランス語講座 1月8日(水)~ 3月31日(火)

月L/火M/水Me/木J/金V/午前-ma/午後-ap 教室: 9, ave Marceau 75116 Paris Tel: 01-4723-3358 e-mail: nihonjinkai@free.fr
 講座実施は各クラス5名以上。体験入学可。【初級クラス新設】

クラス	曜日	時間帯	既習時間	使用テキスト	授業料
LJ-ma ♡	月木	9h45-12h00 (24回)	まったくの初心者	Saison 1(Gibert Jeuneにてお求めください)	540€
Me-ma #	水	9h45-12h00 (12回)	まったくの初心者	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant, complet A1.1	270€
L-ma #	月	9h45-12h00 (12回)	58h30	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant, complet A1.1	270€
MJ-ap ◇	火木	12h30-14h45 (24回)	58h30	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant	540€
L-ap ♡	月	12h30-14h45 (12回)	53h30	コピー配布教材(日常に役立つフランス語) A1レベル	270€
M-ma #	火	9h45-12h00 (12回)	83h15	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant, complet A1.1	270€
M-ma ☆b	火	9h45-12h00 (12回)	141h45	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & コピー配布教材	270€
V-ma ◇	金	9h45-12h00 (12回)	175h30	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant	270€
J-ma ☆b	木	9h45-12h00 (12回)	199h15	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & コピー配布教材	270€
Me-ap #	水	13h00-15h00 (12回)	541h15	Grammaire Progressive du Français-Niveau perfectionnement	240€
会話Me ☆b 初級 I	水	9h45-12h00 (12回)	日常会話の発音・聞き取り訓練クラス。		270€
会話V # 初級 II 29h15既習	金	9h45-12h00 (12回)	いろいろな場面設定での日常会話や文章を使って実践的にすぐに利用できる練習と正しい発音の訓練。		270€
会話J # 初級 III 144h既習	木	12h30-14h45 (12回)	Me 初級 Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & コピー配布教材		270€
会話L ◇ 中級 243h既習	月	12h30-14h45 (12回)	J初級、V初級 テキスト Communication Progressive du Français-Niveau grand débutant L 中級 教材コピー配布		270€

1) 授業料は一期コース前納制(受講開始と同時)。返金には応じません。支払方法は郵送の場合は小切手のみ。来館払いの場合は現金または小切手。小切手の宛先ordre はAARJF。送付宛先: 9 avenue Marceau 75116 Paris 授業開始後、約2週間経過した中途入学に関しては別途料金計算。問い合わせください。問合・申込 **TEL 01 4723 3358**

2) テキストはGibert Jeune (10 Place Saint Michel 75006 Paris) にて各自お求めください。
 Saison 1= DIDIER社刊行、Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & perfectionnement、Communication Progressive du Français-Niveau grand débutant、Grammaire en dialogue-Niveau grand débutant、Tendances méthode de français A1= CLE INTERNATIONAL社刊行

【日本人の特徴を知り尽くした講師陣による授業】 Mme Florence MEHRVAR (♡クラス担当) M Michel BRUNEAU (☆クラス担当) Mme Marine VALLE (♠クラス担当)
 Mme Muriel NAVARRO (◇クラス担当) M Laurent LOYER (#クラス担当)

夜間クラス 初級I 火&木 19h-20h30 新設!
 期間: 1月9日(木) ~ 3月31日(火) 週2回 計24回
 対象: 全くの初心者

夜間クラス 初級II 月&水 19h-20h30
 期間: 1月8日(水) ~ 3月30日(月) 週2回 計24回
 対象: 初級(2019年9月より34h30既習)

夜間クラス 準初級III 月&木 19h-20h30
 期間: 1月9日(木) ~ 3月30日(金) 週2回 計24回
 対象: 準初級(2017年4月より133h30既習)

夜間クラス 準初級IV 金 19h-20h30
 期間: 1月10日(金) ~ 3月27日(金) 週1回 計12回
 対象: 初級(2017年4月より153h既習)

受講料: 初級I、II、準初級III 540€ / 準初級IV 270€
 講師: 初級I&II Muriel NAVARRO / 準初級III&IV Laurent LOYER
 教材: 準初級III&IV: Communication Progressive du Français-grand débutant、初級I&II: コピー配布教材

キッズ補習 金曜クラス 大好評! 対象: 6~12歳 子どものフランス語力アップをサポート
 期間: 1月10日(金) ~ 3月27日(金) 17h~18h30 全12回
 講師: M. Laurent LOYER 受講料: 270€

発音教室 火曜 対象: 全レベル
 期間: 1月14日(火) ~ 2月18日(火) 15h~16h 予約不要
 対象: フランス語のレベルは問いません。講師: Mme. Muriel NAVARRO
 受講料: 1回7€ (現フランス語講座受講者は5€)

DELFDALF 対策 3クラス *実施3名以上
月曜 (C1)、火曜 (B2)、木曜 (B1) 17h15-18h45 (1h30) 各12回
 期間: 1月9日(木) ~ 3月31日(火)
 対象: B1、B2、C1受験者 テキスト: コピー配布教材
 講師: Mme Muriel NAVARRO (DELF認定官) 受講料: 各270€



目次

新年のご挨拶	1	フランス歴史散歩	8
パイオルガンに魅せられて	2	テニス一般クラス・トーナメント	8
第37回パリ名人戦	2	キッズテニス・トーナメント	8
劇場のスヌメ	3	終(つい)のデザインのススメ(35)	9
補習校だより	3	馬文化を通して日本を考える(10)	9
ヨーロッパでの和紙にまつわるお話	3	特別連載 パリの画家たち	10
パリ日本文化会館事業案内	4-5	グローバル時代のコミュニケーション	10
滞在相談室から	6	場所と人の出会い <25>	11
シャンソンコンサート	6	ふらんす俳句会 <124>	11
日本人会活動案内	7	新春フランス語講座	12

日本人会会報 Journal Japon

年6回発行: 第45巻1号(通巻281号)
 発行人 片川 喜代治
 編集人 高橋 幸隆
 発行 在仏日本人会
 ASSOCIATION AMICALE DES RESSORTISSANTS
 JAPONAIS EN FRANCE
 9, Av. Marceau 75116 Paris
 TEL: 01-47-23-33-58
 月~土 du lundi au samedi 9:30-12:30 / 13:30-17:30
 www.zaifutsunihonjinkai.fr nihonjinkai@free.fr
 *サイト内「会報」の「バックナンバー」を閲覧する際の
 パスワード: sakura2019
 *本誌の無断転載を禁じます

